

国語 第2学年 あいての考えを引き出す しつもんをしよう 検討会の想定問答

指摘 1：この教材で身に付ける力は何か。

返し：考えた道具について聞き合い、質問への返答から考えを具体的にする。A(1)エに関わる学習として、道具の説明と質問で詳しくなった考えの記録で言葉の扱いを確かめる。

指摘 2：学習できたと判断する根拠は何か。

返し：評価では、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもっているかを、道具の説明と質問で詳しくなった考えの記録と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

指摘 3：活動だけで終わらせないために何を残すか。

返し：道具の説明と質問で詳しくなった考えの記録を残す。完成後の見た目だけでなく、どの言葉を選んだか、その理由を本人の説明と照合する。

指摘 4：つまずきにはどう対応するか。

返し：絵の上手さや実現可能性だけで評価する。その場合は、使う人・場面・働きの欄を示す。空想であることを確かめ、友達の案を否定する質問ではなく知りたいことを尋ねる。

指摘 5：本時の問いはどのように働くか。

返し：「その道具を使う人は、どんなことができるのですか」に一度答えてから活動に入り、確かめた後に答えを比べる。教師の予定した文と一致するかではなく、言葉と理由の対応で判断する。

指摘 6：友達と違う考えはどう扱うか。

返し：聞き手が受け取った内容を話し手に返す。伝わらなかったところを聞き返し、言い方や聞き方を試し直す。友達と同じ表現に直すことを目的にせず、伝わったことと確かめる必要があることを区別する。

指摘 7：態度の評価は参加の様子で決めるのか。

返し：参加回数や声の大きさだけで決めない。学習の見通しをもち、困った箇所を確かめて方法を試した記録から、粘り強さと自分の学習の調整を捉える。

指摘 8：端末や特別な道具がなくても進められるか。

返し：道具の説明と質問で詳しくなった考えの記録は紙・板書・口述の記録で扱える。端末がある場合は見直し前後を保存して比べる。道具の操作の上手さを国語の評価と混同しない。

指摘 9：配当時間を変更する時は何を確かめるか。

返し：全7時間は光村図書の公式年間指導計画に基づく。本案の各時の配分は授業案であり、学校の年間計画に合わせて組み替える際も、目標と評価を確認する活動を残す。

指摘 10：教科書本文を配布物に載せていない理由は何か。

返し：児童と教師は使用中の教科書を手元で参照する。本案には独自の問い、活動の手順、記録の観点を示し、本文や台詞、挿絵、教科書の問題文を複製しない。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

